

広島県中小企業団体中央会 2020年9月分情報連絡一覧表

※本調査は10月の見通しについても調査をしている関係上、特に新型コロナウイルスの世界的感染拡大に対する10月以降のコメントも掲載しています。

(食料品)

●食料品

中国醤油醸造協同組合

9月の出荷量は前月比2.0%減少、前年同月比3.5%減少となり、売上高は前月比1.0%減少、前年同月比4.1%減少となった。

広島県東部菓子商工業協同組合

全体的に回復の兆しがでてきつつある。しかし、多くの業種でコロナ禍による萎縮が見られるため、消費が伸び悩んでいるのではないかと感じる。

(繊維・同製品)

●繊維工業

広島県織物構造改善工業組合

引き続き売上高は悪い状態が続いており、先行きが見通せない状況である。

●衣服・その他の繊維製品

広島県アパレル工業組合

4月～6月の緊急事態宣言の間は売上が減少していたが、徐々に通常に戻りつつある。

(木材・木製品)

●木材・木製品

福山木材協同組合

一時期よりは景況感は上向きつつあるが、先行きは不透明である。

広島県木材協同組合連合会

<全国>

- ・令和2年8月の全国の住宅着工戸数は69,101戸で前年同月比9.1%減少
- ・季節調整済年率換算値では819千戸(前月比1.0%減少)
- ・利用関係別では、持家は21,915戸で前年同月比8.8%減少、貸家は27,671戸で前年同月比5.4%減少
- ・分譲住宅は18,933戸で前年同月比15.9%減少
- ・木造住宅着工は38,410戸で前年同月比12.0%減少
- ・住宅着工動向は前年同月比14ヶ月連続で減少とリーマンショック後に次ぐ低水準が続いている

<広島>

- ・8月の着工戸数は1,243戸で前年比11.7%減少
- ・内訳としては持家が436戸で前年比12.6%減少、貸家は519戸で前年比8.1%増加、分譲は286戸で前年比33.2%減少と県全体の住宅着工動向は依然厳しい状況にあるが、移動制限があった春先の大幅な落ち込み予想までは低迷しておらず、人の移動や接客が出来ない時期からすると、復調の兆しが見られる。
- ・公共建築や民間を含めた非住宅分野の木造化を支援する補助事業の相次ぐ実施で今後の受注増への期待は大きく、燃料向けチップの需要も安定している。一方で、輸出梱包やパレットなど物流関連資材は依然として停滞感が強く先行きが見通しづらい状況にある。
- ・住宅需要の減少に加えコロナ禍で受注戦略や営業成績による差が大きく、堅調な企業がある一方で業況悪化を訴える企業と二極化が進んでおり、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

ひろしま木材事業協同組合

9月の県内のプレカット工場の市況としては、前半は定時操業の工場が多かったが、連休明けはどこも仕事が多く、残業を行う工場が多かった。

原木市場では、国有林などの現場が動くことで8月に比べて出材量が増えているが、各森林組合からの出材は盛り上がり欠ける状況が続いた。原木相場は桧を中心に上げ基調が続いており、価格の上昇を受け一定の出材量の増加を見込んでいる。

ここ数年、冬場の積雪が少なかったが、今年は多いとの予想が多く聞かれ、原木出材量や工場の製材量にも影響が出ることが予想される。

(印刷)

●出版・印刷・同関連

広島県印刷工業組合

前月に比べると少し仕事に戻ってきているように感じるが、戻りきる兆しはない。減った部分を埋める仕事を生み出すため、各社必死にがんばっている。こういうときこそ表面だけでなく本質的なことを考え、今後未来への指針を確認、構築したいと思う。

(化学・ゴム)

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

緊急事態宣言解除後、人の移動が多くなった結果、再び新型コロナウイルス感染拡大が進行し、回復基調にあった経済が8月以降再び足踏み状態になりつつある。自動車の国内生産台数も7～9月は前年比15～20%減少まで戻ったが、それ以降も前年比10～15%減少で数年間推移しそうである。組合員の多くが採用や投資を止めている状況にあると思われる中、全国的にも広島県経済においても当面厳しい状況が続くそうである。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

自動車関連の売上、設備操業度は回復基調ではあるが、業界全体では未だ減少している。

各社資金繰りへの影響が懸念される。

問題は、新型コロナウイルス感染症の終息時期が見通せないことである。

(窯業・土石製品)

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況

2年 9月3,159m³ (前年比1.87%減少)

2年 8月2,621m³

R1年 9月3,219m³

上期(4～9月)の出荷は対前年比4.09%減少であった。

(鉄鋼・金属製品)

●鉄鋼業

広島県鋳物工業協同組合

マツダの生産再開により、自動車部品製造は回復基調にあるが、自動車の販売により業績見通しは不透明の状況である。

船舶関連は前年並みに推移するも、産業機械などは前年比減少となる見通しである。

(一般機器)

●一般機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合

今月の売上は、前月比は30%増加となったが、新型コロナウイルス感染拡大の長期化に伴う国内外の景気減退により前年同月比は10%減少となった。

収益状況、設備操業度は前年比悪化となり厳しい状況が続いている。今後も悪化のまま横ばいで推移していくことが予想される。

出島工業会協同組合

売上は、月によって増減が激しく先行きが読めない状況である。

(電気機器)

●電気機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合(電気機械器具)

先月同様、新型コロナウイルスの影響で、国内外ともに受注が減少しており、前月比5%減少、前年同月比10%減少となった。設備投資減少の影響は大きく、小型機種での減少幅が大きい。

(輸送用機器)

●輸送用機械器具(自動車)

東友会協同組合

組合員の業況は、ビジネス依存度の高い主要顧客(マツダ)の業況(生産台数)に比例している。

- ・9月の国内自動車販売台数は全需が470千台、前年同月比14.3%減少と12ヶ月連続の前年割れ。登録車は前年同月比15.6%減少と12ヶ月連続の前年割れ、軽自動車も前年同月比で12.1%減少と12ヶ月連続の前年割れ。マツダ車は同26.0%減少と6ヶ月連続の前年割れ
- ・アメリカの8月の全需は1,320千台で前年同月比20.0%減少と6ヶ月連続の前年割れ。マツダ車は同5.1%減少と3ヶ月振りの前年割れ
- ・欧州の8月の全需は1,070千台で、前年同月比13.2%減少と8ヶ月連続の前年割れ。マツダ車も同26.4%減少と8ヶ月連続の前年割れ
- ・中国の8月の全需は1,691千台で、前年同月比13.5%減少。マツダ車は同2.3%減少と5ヶ月連続の前年割れ
- ・上記各地域の状況下、マツダ車の8月の海外販売合計台数は89千台、前年同月比13.1%減少で8ヶ月連続の前年割れ
- ・マツダの8月の輸出台数は前年比24.9%減少と11ヶ月連続の前年割れ
- ・マツダの8月の国内生産台数は、前年同月比19.3%減少と11ヶ月連続の前年割れ

●輸送用機械器具（造船）

（一社）中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化はない。

中国地区造船協議会

県内2,500総トン以上の令和2年8月の船舶建造許可実績は4隻94,400総トンであった。（前月1隻11,900総トン、前年同月5隻298,750総トン）

なお、内訳は国内船が1隻でその他輸出船は3隻で全てが貨物船であった。

（卸売業）

●卸売業（総合）

協同組合福山卸センター

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、売上は前年同月比減少、景況感も悪化している。

協同組合広島総合卸センター

全体として景況感に大きな変化は見られないが、新型コロナウイルスの影響長期化が強く懸念されている。

「雑貨」においては、生活用品関連では、一定の持ち直しが見られるものの、観光、紙関連では厳しい状況が続いている。

「資材」においては、裾野の広い建築関連投資は中止、延期等動きが未だ硬直化しており、先行きは不透明である。

「食品」においては、日配・生鮮等家庭用と外食等業務用で依然明暗が分かれ、外食等業務用の回復の兆しは弱い。

「繊維」においては、コロナ禍により売上見通しは販路・チャネルにより異なり、地方・中小規模店舗向けは踏みとどまっている状況にある。都市部の大規模店舗向けは依然厳しく、総じてコロナ禍の長期化に伴う在庫負担、資金繰りへの影響が懸念されている。今後の冬需要に期待する動きはある。

新型コロナウイルス感染症拡大の長期化による収支への影響は大きく、助成金や金融機関からの資金調達により当面の資金を賄っている状況にあるが、先行き不透明感は拭えず、早急な打開策が見いだせない状況が続いている。

●卸売業（食料）

広島県東部食糧協同組合

食料品小売業において、特に小規模事業者の売上不振が目立つ。

●卸売業（電設資材）

広島県電設資材卸業協同組合

コロナ禍で新築住宅着工の減少が続く、今後に影響が出る可能性が高い。

来年春の採用について、大手企業の採用縮小による中小企業への関心の高まりや、コロナ禍の影響が大きい業種を避ける動きもあるのか、会社訪問や採用面接へのエントリーが例年より多い。

●卸売業（家具）

リビズ株式会社

今月は、上旬は台風の影響により売上は減少したが、トータルで見ると前々年並みで推移している。

10月は消費税率引上げの反動減により前年比増加となる見込みである。

●卸売業（畳・敷物）

広島県藁製品商業協同組合

国産表はコロナ禍で販売もやや低調、畳表の相場は横ばいの状態である。

今年7月の中国産畳表の輸入量は前年同月比14.9%減少と回復基調には至っていない。

しかし、業界筋では年末に向けてエンドユーザーの需要増加に期待している。

（小売業）

●各種商品小売業

広島生鮮三品連絡協議会

内食需要で好調だった生鮮食料品は天候不順の影響から入荷量が減少し、相場高の影響もありカット野菜など手頃な価格帯の商品が伸びている。

コロナ禍の長期化に伴い、消費者は先行き不安から優先順位の低いものの消費を抑える節約志向が鮮明となり、より安いものや特売品を求める傾向が見られる。

週末のまとめ買いは駐車場の整った品揃えの良い店舗へ毎週出かけるリピーター化がコロナ禍でより鮮明となっている。

水産部の取扱高は前年比20%減少と低水準が続いている。

小売店の「巣ごもり特需」が落ち着く中、飲食店・ホテル・結婚式場の低迷の長期化で業績の回復は当面見込めない。

今後は、ニューノーマル、ウィズコロナに対応した体制づくりを業界全体で模索していく必要がある。

この時期の主力商材であるサンマの不漁が昨年より深刻化し、取扱高が2年前の1割程度まで落ち込んでいる。

協同組合三次ショッピングセンター

全体として、業績は回復しない。新型コロナウイルスの影響で売上減少が続く店舗と回復し前年比増加となる店舗があるなど、店舗間格差が大きくなりつつある。売上減少が続き、店舗の閉店が懸念される。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

今月の販売実績は前年同月比5.6%増加となった。商品別では、薄型テレビ前年同月比0.6%増加、冷蔵庫同1.5%増加、洗濯機同7.9%減少、IHクッキングヒーター同10.4%減少、エコキュート同3.1%増加、エアコン同8.7%増加となった。

猛暑によるエアコンの売上は9月に入っても勢いは衰えず、商品不足も続いている。

●その他の小売業（燃料）

広島県石油商業組合

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で需要の落ち込みが戻りきらない。カーケア商品等燃料以外の商品は石油製品以上に落ち込みが激しい。石油製品の需要減少を補うための値上げも思うようにいかないのが現状である。

（商店街）

●商店街（各種商品小売業）

広島金座街商店街振興組合

人通りは戻りつつあるが、売上は未だ前年同月比減少が続いている。

呉本通商店街振興組合

新型コロナウイルス感染拡大の影響による倒産はなかったものの、売上減少と店主の高齢化により、これを機に自主廃業を決めた飲食店が1店舗あった。

9月から、全国展開するドラッグストア数店舗で青果、精肉を販売している。近隣にスーパーがなく、シニア層を中心に好評である。

今月末から映画「狐狼の血2」の撮影が始まる。市役所から商店街のアーケード上での撮影協力があった。

（サービス業）

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は、前月比38.5%増加、前年比変化なし

車検場収入は、前月比38.2%増加、前年比2.1%増加

重量税・登録印紙の売上は、前月比29.7%増加、前年比8.3%減少

●広告業

広島県広告美術協同組合連合会

若干稼働しているが、従来の受注量までは回復していない。引き続き受注見込みは少ない。

高齢の組合員1社がコロナ禍で廃業した。今後、同じことが発生する可能性がある。

●警備業

広島県警備業協同組合

今後も新型コロナウイルス感染症の影響が懸念される。

（建設業）

●工事業

広島県室内装飾事業協同組合

カーテン、敷物、壁装クロス等の3品目合計について、9月度は前月比16.0%増加、前年同月比4.8%減少、累計前年比7.9%増加となった。前月比、前年同月比では波はあるが、前年累計比では微増が続いている。

福山地区電気工事業協同組合

今月の工事受付件数は、前月比3.65%減少、前年比20.75%減少となった。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で「住宅新築を踏みとどまる施主」が多い。

（運輸業）

●道路貨物運送業

広島輸送ターミナル協同組合

今月は、経済活動の再開と共に物流の動きも好転しつつある。コロナ禍で社会、経済の先行きが見通せない中、サプライチェーンの変革に対応できるよう、最適な物流業態のあり方に取り組んでいる。

中国カーゴ軽運送協同組合

やや持ち直した感はあるが、前年同月比12%減少で売上は75万円減少となった。この売上減が組合の存続を分ける可能性もある。引き続き経費削減を進めていくことも、重要な課題である。

松永地区トラック事業協同組合

9月の売上は、前年同月比大幅減、前月比ではお盆の特需により微増であった。

前月同様、関西・中部・関東方面からの返路貨物が7月以降増加傾向にあるが、「コロナ運賃」と称して以前より運賃は安価となっている。特に利用運送にかかる運賃が低廉化している。

新型コロナウイルス感染症により、通販がさらに拡大し、宅配事業者は貨物取扱量が増加しているが、それ以外の貨物は緊急事態宣言発出前までは回復していない。回復がいつになるのか、先行きが見通せないのが現状である。

水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高齢化が進んでいると同時に若年船員が育っていないため、船員不足である。

運賃、用船料の改善が見られない

(その他)

●不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

今月は、地価調査評価作業報酬、固定評価時点修正作業報酬の入金等で売上高、収益状況、資金繰りにおいて前月比増加した。前年同月比は変化なし。

今月から国土交通省の地価公示評価作業が始まっているが、その他の一般評価件数については特に変化はない。

流川・薬研堀等歓楽街の飲食店等での客足は戻りつつあるが、大人数での会食が控えられているため規模の大きな店舗は依然として苦しい状況が続いている。これからの忘年会シーズンの予約も減少している。

不動産市場においては、コロナ禍の影響による先行き不透明感から取引件数が減少している。賃貸物件についてはコロナ禍で控えていた人の移動が増えてきたためか、住宅物件の成約が増加傾向にある。